

GENBA Plus User Interview 7



施工例

まずは工程表をきちんと使って
多くの現場動向を皆で正しく共有
業務効率化の第一歩を踏み出す

有限会社 山本建設（神奈川県中郡）

Interviewee：山本秀樹 様（代表取締役）

神奈川県中郡二宮町に本社を置く山本建設は、建築士の山本秀樹社長が率いる工務店である。湘南エリアを中心に、高気密高断熱で自然素材を用いた高品質な注文住宅を年間4～5棟供給。リフォームも多数手がけている。そんな同社が、コロナ禍の影響もあり、さらなる業務効率化を目指して現場Plusを導入した。その活用状況について、社長の山本秀樹氏に伺った。

■ 20年前から高気密高断熱&自然素材の家

——昔から高気密高断熱にお取り組みとか？

山本氏●ええ。今でこそ「夏涼しく冬温かい家」が当たり前ですが、当社では20年も前から高気密高断熱で自然素材の家を作っています。これには理由があって、実は私の両親が自宅のお風呂や朝のお勝手で倒れた経験があるんです。特に父はそのままクモ膜下出血で亡くなりました。だから自分が建てる住宅が、そんな「凶器」にならないようにしたい。そんな風に考え、これを企業理念としています。

——設計体制と供給棟数を教えてください

山本氏●設計については、基本的に私1人です。他に管理部門が3人ほどいるほか、



施工例

オペレータなど2名を加えたのが本部

スタッフで、現場監督は4名です。この体制で、湘南エリアを中心に新築の注文住宅だけで年間4～5棟を供給しています。その他リフォーム等を入れれば数え切れないくらいの数になりますね。

——それだとかかなり忙しいのでは？

山本氏●そうですね。特にコロナ禍以降はいちだんと忙しくなりました。湘南エリアへ移住して来る方が増え、また、地元から東京へ通っていた方もリモートワーク中心の勤務となって、多くの人が住まいのことを考えるようになったんですね。結果、新築もリフォームや修繕工事、塗装工事も増えて、現場も設計も手が足りなくなっています。実はこのことも現場Plusの導入背景の一つなんです。

■ 工程表のフォームを統一し共有を図る

——現場Plusの導入背景とは？

山本氏●前述の通り当社には現場監督が4人いますが、この方たちは元はそれぞれ別の

所にいたので、工程表一つ取っても作り方はそれぞれ違います。当時、ウチではExcelで工程表を作っていましたが、やり方がそれぞれ異なるうえ情報量も全く違うため、設計や管理や営業が、工程表で現場の状況を共有しようとしても難しい状況でした。しかも前述の通り業務が増えてくると、設計も管理も営業もいよいよ追いつかなくなってきて……とにかく工程表を皆で正しく共有し、業務効率化を図るしかない、と。それでツールを探し始めてすぐ、現場Plusを紹介されたんです。

——他社製品等との比較は？

山本氏●他にいろいろあるのは知っていましたが、特にそれらと比較はしませんでしたね。私は長年のARCHITREND ZEROを使っており、ユーザーとして福井コンピュータアーキテクトの製品は信頼しているんですよ。今年3月末に契約を結び、翌4月には運用を開始しました。といっても、まずは社内で普及させようということで、私たち本部スタッフと監督4人に持たせて使い始めたところです。

【山本建設 会社概要】

所在地／神奈川県中郡 資本金／300万円 設立／2001年1月

代表者／代表取締役 山本秀樹

事業内容／注文住宅の設計、施工 各種リフォーム工事 内装／設備工事 他



代表取締役 山本秀樹 氏

目に見える形で工程表を記し、整理していくことで 当社の現場の流れをきちんと確立していきたい



現場Plusのチェックが日課



施工現場



現場Plusを見ながら管理スタッフと打合せ

■ 工程表を正しく運用しながら次ステップ

—— 工程表の利用が一番の目的ですか？

山本氏●もちろん現場Plusにさまざまな機能があるのは承知していますが、まずは工程表からということですね。それだけ当社にとって問題が多かった部分ということでもあります。工程表がきちんと書かれない状態のままだと、工程に関わる基本的な情報が現場監督の中で完結し、外から見られなかったわけで、どういった状態になっているのか知ることもできません。それでは管理側も営業も困りますから……。とにかく監督にはきちんとルールを決めて現場Plusの工程表を書いてもらう。そして、毎週の工程会議でその工程表を基に報告してもらう。そうすれば、誰が見ても一目瞭然になるだろう、と期待しています。

—— 会議では縦横断工程表もお使いですか

山本氏●ええ、縦横断工程表を使って工程会議をやるんですよ。そうやって複数の工程表を一画面で表示することで、担当者の重複チェックや無理がないかチェックできますから。さらにいえば、新築はもちろんリフォーム案件についても、どれだけ規模が小さい案件でも入れるようにしています。幾つもの現場が並行して動いているので、工種がバツティ

ングしないよう調整する必要があるのです。

—— 工程表は使い込んでらっしゃいますね

山本氏●まだまだですが、工程表の活用にはもう一つ狙いがあります。前述の通り手が足りないので、設計も監督も営業もずっと人材を募集している状況です。きちんと書き込まれた工程表があれば、新しい人が来た時に、「社はこういう流れでやっています」と、進め方を見せられますからね。さらに言えば、こうやって皆の目に見える形で記し、整理していくことで、当社の現場の流れをきちんと確立していきたい、という思いもあります。

—— 監督さんたちはすぐ使えるように？

山本氏●だいぶ慣れたようですが、まだ皆ちょっと迷いながらという感じです。当社の場合、監督たちも平均年齢が50歳を超えているので仕方がない部分もありますが、なんとか皆ができるようになるまで頑張りたいですね。その上で、外部協力会社等の下職さんたちにも普及を広げていきたい、と考えています。協力会社は50～60社もあるのでなかなか大変ですが、早めに実現したいですね。

■ 供給棟数を倍増させるために

—— 現場Plusの他の機能はお使いですか？

山本氏●工程表以外では写真を使っています。トークや掲示板も、図面や図面をアップするZERO-Plus LINKや入退場もまだ使っていません。気にはなっているんですが、忙しさにまぎれてなかなか手がつけれません。そこまでやっていけば、効率化というもののはっきり見えてくると思うんですが……。

—— これから特に使ってみたい機能は？

山本氏●それはもう、付いている機能は全部使っていきたいですが、特に下職さんの入退場管理は使っていきたいですね。そしてもちろん、トーク機能や掲示板の機能も早く使うようにしていく必要があると思っています。

—— 企業として今後の展開は？

山本氏●基本的には、お客様を守りたい—傷つけたくないという思いが強くなるので、前述した「凶器にならない家」づくりを続けていくつもりです。ただ、供給棟数については、できれば現状の倍程度には増やしていきたいですね。まあ、現状の体制ではそれはどう考えても現実的ではないので、人の採用が一番の課題ということになるでしょう。その意味でも、現場Plusを始めとするシステムを上手く活用して効率化を進めることが、今後いっそう重要になると考えています。

福井コンピュータアーキテクト株式会社

本社／福井県坂井市丸岡町磯部福庄5-6 <https://archi.fukuicompu.co.jp>
札幌・盛岡・仙台・水戸・宇都宮・高崎・新潟・長野・さいたま・千葉・東京・川崎・静岡・名古屋・岐阜・福井・京都・大阪・神戸・岡山・高松・松山・広島・福岡・熊本・別府・宮崎・鹿児島・那覇

●導入に関するお電話でのお問合せ・ご相談は



【福井コンピュータグループ総合案内】

0570-039-291

●体験版ダウンロード・資料請求はHPから

福井コンピュータアーキテクト

検索

archi.fukuicompu.co.jp